

## 欧州で実施した治験に関する論文が公開されました

当社の欧州子会社である QD レーザドイツ(有)がスポンサーとなり、エッセン大学病院にて実施していた治験の結果が、Ophthalmology 誌に掲載されました。

### ■論文タイトル

Evaluation of a retinal projection laser eyewear in subjects with visual impairment caused by corneal diseases in a randomized trial

### ■著者

Dr. Mareile Stöhr, Dr. Dirk Dekowski, Prof. Dr. Nikolaos Bechrakis, PD Dr. Michael Oeverhaus, Prof. Dr. Anja Eckstein

### ■論文掲載 URL(オープンアクセス)

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0161642023008461>

<https://doi.org/10.1016/j.optha.2023.11.011>

この論文は、角膜疾患(主に混濁)による視覚障害を持つ患者を対象に、網膜投影型レーザーアイウェア(LEW)の効果を評価するランダム化試験について述べています。LEW は、内蔵カメラによって捉えられた画像を RGB レーザを使って直接網膜に投影する新しい技術です。

研究は、視力(近見と遠見)、読書速度、生活の質(QoL)、および日常活動の実施能力を測定することで LEW の有効性を評価しました。被験者は、LEW 使用前と使用後に標準的な眼科検査を受け、安全性を評価しています。

研究結果は、LEW を使用することで、すべての被験者の視力が向上し、読書可能な被験者数が増加し、QoL が有意に改善されたことを示しました。これにより、LEW は角膜疾患を持つ患者のための新たな低視力補助装置(LVA)としての可能性があるかと結論付けられました。

研究のデザインは、単一施設でのランダム化クロスオーバーデザインを採用しており、被験者は LEW の使用と非使用フェーズを経験しました。各フェーズ後に視力、読書速度、生活の質が評価されました。

視力測定では、Early Treatment Diabetic Retinopathy Study (ETDRS) プロトコルに従い、最良矯正視力(BC)と LEW の使用時の両方で、遠見と近見の視力を評価しました。読書速度は、International Reading Speed Texts (IReST) を使用して評価されました。

治験は 2018 年から実施され、2021 年 6 月にフォローアップフェーズを含めたすべての評価が終了しています。

参考:治験完了のお知らせ <https://www.qdlaser.com/news/753/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 QD レーザ 視覚情報デバイス事業部

メール:[vid-sales@qdlaser.com](mailto:vid-sales@qdlaser.com)

以上